

市政執行方針（一部抜粋）



戦略がスタートしました。

新型コロナウイルス感染症については、日本国内で初めて感染者が確認されてから1年を経過しましたが、いまだに収束の兆しが見えない状況です。

北海道における直近の状況としては、全体の新規感染者数は減少傾向にありますが、クラスターの発生・拡大など、依然として厳しい状況が続いています。

今後、新型コロナウイルスワクチン接種が始まりますが、相談や接種実施の体制を確保し、円滑な実施に努めます。

昨年は、赤平市の今後10年間のまちづくりの指針となる「第6次赤平市総合計画」や人口減少対策の重点施策となる「第2期赤平市」とひと・まち創生総合

戦略がスタートしました。赤平市の将来像を「ひと・自然・産業」が輝く、協働と共創のまち「赤平」とし、市民・事業者・行政がともに協力し合いながら地域の課題解決に向けた活動を行なう「協働」をこれまで以上に推進していきます。そして、それぞれが連携しながら本市の将来を共同で創り上げる「共創」により、本市の大切な資源である「ひと・自然・産業」が輝くまちづくりを進めていきます。

コロナ禍で、しわ寄せが集まりがちな社会的弱者を支える手立てをどうするのか、対策に取り組む財政支出が将来世代の負担となる現実をどう考えるべきか、限られた時間の中で、少数意見をも重視する議論によって合意を探り、場合によっては柔軟に修正する。そのためには対立する意見が交わることでできる民主的な対話の場が重要です。

中国の兵法書である孫子の中に「智者（ちしや）の慮（りよ）は必ず利害に雑（まじ）う」という一節があり、これは「智者は、ものごとのプラス面だけを考えず、その

半面にマイナスもあることを考慮に入れる。また、逆にマイナス面だけを考えず、その半面にプラスもあることを考慮に入れる。」という意味です。

そして、このあとに次のように続いています。「利に雑えて務むれば信ずべし。」これは、「悪いことがおきた場合でも、プラス面を見いだして努力していけば、積極性が出てくる。また、うまくいっている場合でも、マイナス面に配慮しておくことで災難を予防できる。」という意味です。

「陰と陽」や「天と地」など、どちらか一つだけでは成り立たず、対立しながらもかわりあい、からみあっています。このような中国の伝統的な二面的考え方は、長い歴史から生まれた知恵であると考えられます。

私も二面的思考法を心に留め、市民の命と生活を守り、弱者や少数者に優しい社会の実現に向け、全力を挙げてこの難局に立ち向かいたいと思います。

赤平市市長 畠山 渉

健やかな暮らしを
ともに支え合つまち

【感染症対策】

- 定期予防接種やワクチンなどの接種費助成の継続
- 小児インフルエンザ予防接種費助成対象を高校生まで拡充
- 新型コロナウイルス感染症について情報提供の継続 赤平市医師会と連携し、円滑なワクチン接種の実現に向けた取り組みの実施

【地域福祉の充実】

- 高齢者世帯、障がい者世帯、ひとり親世帯で自力で除雪ができず、支援する親族もいない世帯に対する除雪費助成の継続

【出産・子育て支援の充実】

- 出産後間もない母親の「こころ」と「からだ」の状態を確認する産婦健康診査費用を新たに助成

- 18歳以下の子ども医療費無料化の継続

- 高等学校等通学費等支援事業の継続

- 母子・父子自立支援員による相談業務などの継続（ひとり親世帯への支援）

- 子どもが入学する際の入学支度金助成、民間賃貸住宅家賃助

成の継続

- 3～5歳までの全児童および0～2歳までの住民税非課税世帯の保育料や副食費無償化の継続

- 令和4年4月開校の統合小学校で赤平市独自の放課後子ども教室を開設し、その中で留守家庭の児童を預かる学童保育事業を整備
- 令和4年度完成を目指し、子育て世帯向け住戸4戸を整備（吉野第一団地2号棟内）

安全・安心で
快適に暮らせるまち

【移住・定住の促進】

- 吉野団地2号棟造成整備など（令和4年度の完成を目指す）
- 「あんしん住宅助成事業」の助成額を増額

【公園・緑地の適正管理】

- 「公園施設長寿命化計画」を基本に、令和3年度は、翠光苑、茂尻本町公園の遊具を改修

安全・安心で快適に
暮らせるまち(つづき)

活力に満ちた
魅力あふれるまち

ともに学び合い
豊かな心を育むまち

ふれあいと交流で創る
協働のまち

【上水道・下水道の保全】
配水管路および浄水施設の更新(老朽施設対策)

【道路・公共交通の整備】
●5年に1度の管理橋梁44橋の橋梁点検を実施(橋梁長寿命化修繕計画の見直し)

●昨年設立した赤平市地域公共交通活性化協議会で、本市の地域公共交通のあり方などについて検討を重ね、今年度中に「赤平市地域公共交通計画」を策定
●私有地で、生活道路として利用され、通行の確保が必要な私道除排雪の継続実施

【防災体制の充実】
●災害時における避難方法やコロナ禍の避難所運営など、感染症対策に配慮した体制の構築
●災害時の情報伝達手段として整備した、赤平市防災行政無線の運用開始

【情報通信環境の充実】
市内における情報格差を解消し、子どもたちの教育環境の充実や基幹産業でもある農業の振興、観光施設での活用などを目的とした光ファイバーの整備

【工業の振興】
コロナ禍の雇用確保として、企業情報ウェブサイトの充実や、新規学卒者への合同企業説明会のオンライン開催

【商業の振興】
市内商店の存続と地域商業活性化のため、商工会議所や商店街振興対策協議会と連携し、感染症対策とともに新たな生活様式に対応した支援策の検討や、商業の振興に向けた取り組みの推進

【林業の振興】
森林整備、人材育成・担い手確保および木材利用を促進するため、森林環境譲与税を活用した木育推進事業、木製遊具や私有林の整備に対する補助

【観光の振興】
●感染症対策の徹底を図り、近年のアウトドアブームなどで増加したキャンパーに楽しんでもらえるよう、エルム高原家族旅行村やオートキャンプ場、コテージなどの魅力をPR
●新型コロナウイルス感染症の影響で全国的にもイベントの実施が困難な状況となっており

りますが、今年は、市内最大のイベント「あかびら火まつり」が節目の50周年を迎えます。改めて、歴史の積み重ねとこれまで支えていただいた関係者のご尽力に深く感謝と敬意を表します。節目を契機に、これまで培った伝統を受け継ぎながら、感染症防止対策を徹底し、新たな発想・新たなスタイルでの実施と、同時に、火まつりの原点である市民が楽しめるイベントとして、これからも継続的に実施できる支援をします。
●日本遺産に認定された「炭鉄港」において、「炭鉄港推進協議会」を中心に連携し、地域資源の有効活用を図り、引き続き広域的観光ルートの創出に取り組みます。



あかびらまちづくりフォトコンテスト
2020応募作品「伝導者」出口慎也(留萌市)

【学校教育の充実】
●小学生を対象とした「子ども塾」、中学生を対象とした「公設学習塾」を継続し、自ら学ぶ子どもたちを支援
●ICT機器の整備を進め、その有効活用を通して、学習意欲の向上と授業の充実を図ります。
●令和4年度の統合小学校開校に向け、2力年事業の建設工事を継続し、グラウンド整備・駐車場工事などの実施

【芸術・歴史・文化の推進】

新型コロナウイルス感染症の影響で、赤平市炭鉄遺産ガイダンス施設は、一時、閉館を余儀なくされ、入館者数も減少しましたが、メディアに取り上げられたこともあり、昨年7月の月間入館者数は、開館以来最高の1,760人となりました。今後、石炭産業で栄えた本市の歴史を伝えるとともに、市内外から好評を得ているガイド付き見学を核に、郷土への誇りや愛着を育むため、引き続き、市内小中学生の見学の奨励など、歴史や文化に親しむ機会の充実に努め、また、市外小中学校への施設見学の促進を図り、利用者増に努めます。

【市民参画の推進】

市民の主体的活動を育み、自主的にこなす公益活動のあるまちづくり活動や、人材育成の促進を図り地域活性化のための活動を行なう団体を支援する「まちづくり活動推進事業補助金」「まちづくり・人づくり事業補助金」の継続

【広報・広聴の推進】

市民アンケートを継続し、意見や要望は広報あかびらやホームページなどで情報の共有化を図ります。

【健全な行財政の運営】

●市民サービス向上を図るため、事務作業効率化を目指し、定例的な業務を自動化するRPAの実証実験を行ないました。今後は、効果的な導入に向けて、調査・研究を進めます。

●赤平市公共施設等総合管理計画に基づき、各公共施設の管理・運営に努め、施設の統廃合、複合化、集約化などに向け、住民ニーズにあう公共施設の適正配置の検討を進めます。

全文については、市ホームページ(市長の部屋から)ご覧ください。